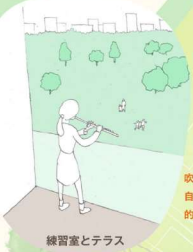
仙台青葉山大広場

2つの施設とランドスケープを一体化し
広瀬川対岸の西公園と対となる、大きな広場を提案します
さまざまなアクセスを受けとめる
青葉山エリアの施設群や緑豊かな環境への
エントランスとなります
施設を訪れるひとたちに加えて、近隣の学生たち
さらには広く仙台市民の日常のための
あたらしい広場です



練習室とテラス

全室テラス付き。大規模な学会や大会、公演時にも、控室や会議室としても利用。遮音性に配慮した2重ガラス窓越しに景色を眺めながら、心地よく練習ができます

調光・排気機能を備えた上部のトップライトにより、各層が自然光と自然通風に満ちた心地のよいホワイエとロビーになります

交流ロビー吹抜け

練習室群やワークショップ・こどもゾーンのにぎわいが、吹抜けを介して交流イベントロビーに響きます。3層にわたるプロジェクションウォールには公演の様子が映し出され、人々が立体的に集います

小ホール主舞台同等の広さ

各階のロビーやラウンジに面したホワイエは、電子チケットによる分散ゲートに対応

メンテナンス通路と小庇を兼ねて、4周床を少し張り出します

セキュリティラインを段階的に移動して、リハ室や練習室の一般利用の機会を増やします

吹抜のまわりのロビーでは自習する学生や市民で日常的ににぎわいます

大ホール主舞台同等の広さ（18.2×18.2m）。壁の一面に鏡とバレエバーを設けカーテンで隠せるようにします

小ホールは、独立したアプローチと眺望のよいホワイエを備え、小規模でも本格的な公演を演出します

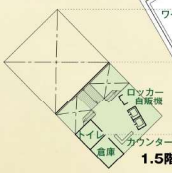
3階平面図

光庭とラウンジ

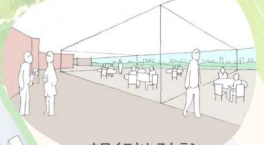
地階から空までの吹抜けとそれを囲むテラス。滞在時間の長い諸室のなかに、各層自然光と通風による心地のよいラウンジをつくります

小ホールでの公演がないときは、セキュリティラインを移動して、会議室や他部門のイベントのための控室として活用します

2階平面図



1.5階平面図



ホワイエとレストラン

テラスと一体的に利用できるレストランは、交流イベントロビーの吹抜けや大ホールホワイエのすぐ近く、建物全体の中心にあり、ランチ付き講演会やオペラの幕間の飲食といった、各部門との連携が期待できます

ロータリーを西側道路に移設。西側道路が車寄せとなって屋根の下で車を待つことができ、道路側ににぎわいが染み出します。歩道の切り開きを北側1箇所にまとめ、歩行空間を連続させます

駅が混雑しているときの滞留空間や大ホールもぎり前の待機場所にもなります

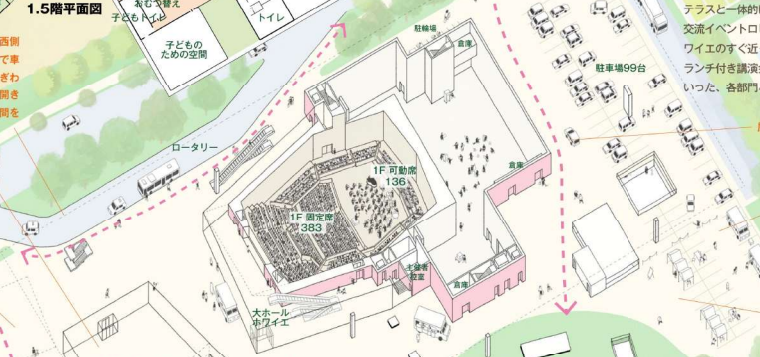
駅から雨に濡れずに建物に入ることができます

屋外広場や交流イベントロビーを一体化するスロープ。大規模な公演終了時には、大きなスロープによりスムーズに、景色を楽しみながら帰路につくことができます

建物の他の場所から少し距離をとったひだまりのような場所。人々の声、車や電車の音、木々のざわめきを遠くに聴きながら、静かに時間を過ごすことができます

浸水に配慮して電気室は屋上に設置。各室隣接した場所に空調機械室を設けることで、配管を効率化するとともに、地階の機械室ボリュームを小さくして施工コストの縮減を図ります

舞台制作工房の正面に搬入用のドアを設け、制作した舞台セットをスムーズに搬入可能



配置図＋1階平面図

屋根下に一般来館者用車寄せ

一般来館者用駐車場はイベント会場としても利用可

屋外広場でのイベント時の搬入や車両の乗り入れも想定

桜の小径の延長のようなスロープで災害文化創造支援・発信エリアへ

地階のトップライトを利用した屋外ファニチャー

地下1階平面図 1/600

リハーサル室としても使用できるように十分な遮音性を確保

上手袖と下手袖をつなぐ通路は、公演時にハンガーラックやケータリングが並ぶことをふまえて3m幅以上を確保

光庭により、地下の楽屋エリアにも光と風を届けます

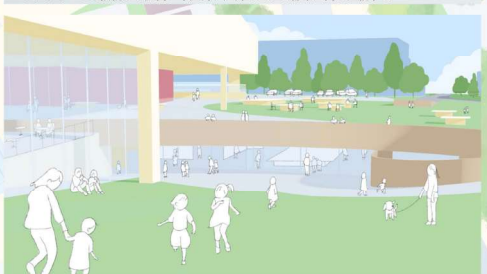
大ホールだけでなく小ホールやワークショップゾーンの製作にも使用可能。表と裏の両側の動線に出入口を設け、専門的にも一般の来訪者も利用できるようにします。災害文化創造支援・発信エリアの市民工作工房にも隣接させつくる過程をとおしてもホールと災害メモリアル拠点が連携します

市民工作工房とプロジェクトルームを企画展示室の並びに配置。制作している様子も展示として楽しむことができます

面積表		
RF	1100	㎡
3F	8068	㎡
2F	8339	㎡
1F	2700	㎡
BF	11076	㎡
合計	31283	㎡

仲ノ瀬橋から建物を見る：広瀬川まで連続する広場をつくる建物。大ホールやリハーサル室のボリュームがファサードを分節し、植栽や住宅街のスケールに馴染んだ新しい風景をつくる

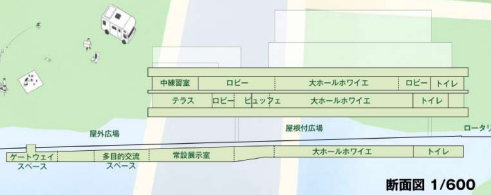
交流ロビー：西側道路から広瀬川まで通り抜けられる半屋外空間と一体で利用可能。大ホールのホワイエとも接続し、屋内、半屋外、屋外の豊かな都市空間が連続する



中心部震災メモリアル：ランドスケープと一体となった通り抜けのできる空間。交流ロビーからもスロープでアクセスでき、多目的交流スペースが見え隠れする

クワイエットスペース：交流ロビー側から見たクワイエットスペース。その先には仙台市街地と広瀬川が見える。どこからでも近くて遠い関係を持つ静かな祈りのためのスペース

大ホール内部空間：数十人単位のバルコニーがステージを取り囲む「多層ワインヤード＋サラウンド型」演者と観賞者が近く、親密で一体感のあるホール空間



断面図 1/600